

# 愛知県立犬山高等学校 公民科研究授業レポート

市場経済の機能や金融の働きについて、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決できるようになることを目的とした授業が実施されました。

1時間目 2023年11月15日(水) 9:00~9:50

1時間目の問いは「ベーシックインカムについて、是か非か」です。

社会保障制度の役割と課題について理解し、自助・共助・公助のバランスについて、自らの考えを論理的に記述していきます。

はじめに、教科書 p118「社会保障」について考えていくことが先生から伝えられ、社会保障のイメージについて、あることわざの空欄に入る言葉を考えるよう指示がありました。

( 働かざる ) 者、食うべからず

本当に働かないと食べるができないのか。ここで、日本でも近年議論されているベーシックインカムについて確認しました。

ベーシックインカムとは、性別や年齢、所得などによって制限されることなく、すべての人が国から一定額の金額を定期的かつ継続的に受け取ることができる社会保障制度のことです。このような社会保障制度を導入するにあたり、メリットとデメリットを話し合うよう先生から指示がありました。

### 【生徒回答(抜粋)】

メリット：働けなくなっても心配ない、自由に生活できる

デメリット：税金が上がりそう(財源はどこからか)、働かない人が出てくる

先生から、一般的に言われているベーシックインカムのメリット・デメリットの説明がありました。

### 【ベーシックインカムのメリット・デメリット】

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"><li>・労働と切り離れた所得</li><li>・格差を生まない→貧困対策</li><li>・自由に生活できる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・働かない人が増える?</li><li>・財政を圧迫する →増税?社会保険料?</li></ul>

アメリカではベーシックインカムについてすでに実証実験<sup>\*1</sup>が行われています。

### 【実証実験の結果】

- ・フルタイム労働者の割合増加 28%→40%
- ・不意の出費で借金をする割合の減少 75%→48%
- ・メンタルヘルスの改善 「心理的苦痛測定指標(K-10)」の平均値の改善

この結果を見るとメリットが多いようですが、問題は財源です。

1人当たり6~8万円を支給する場合、約100兆円必要です。現在の日本の年金や医療にかかる予算は約120兆円であることから、これらの社会保障をすべてなくし、ベーシックインカムの財源とすれば対応は可能なことが分かりました。

そこで本時の問い、「ベーシックインカム、是か非か」です。

まずは、現在の社会保障について確認していきましました。

〈社会保障〉・・・税金と社会保険料が財源

- ・社会保険：強制加入の公的保険 医療保険・年金保険・雇用保険・労災保険・介護保険  
→ 基本的には社会保険料でまかなわれる

- ・ 公的扶助：「最低限度の生活」を保障 例. 生活保護  
→ 税金でまかなわれる
- ・ 社会福祉：障がい者、母父子家庭等への公的な支援 例. 児童福祉など
- ・ 公衆衛生：保健所等による国民が健康で安全な生活を送るための予防や衛生

現在の日本は、少子高齢化が進み社会保障に関する財源の確保が課題になっています。

教科書 p120 の社会保障に関する費用のグラフでは、総額約 123.9 兆円、最も割合が高いのは年金で 45%です。

日本の年金制度は「賦課方式」で、20 歳以上の人々が納める年金保険料で老人の年金を支える方式です。1965 年には 9 人で 1 人を支えていましたが、2012 年には 2.4 人で 1 人、2050 年には 1 人で 1 人を支えるようになると考えられています。これらの状況を踏まえ、国の負担分を 3 分の 1 から 2 分の 1 に引き上げられることが決まっており、税金も投入されることとなります。

続けて、自助、共助、公助について確認しました。

- ・ 自助：個人で行う貯蓄、投資などの資産形成
- ・ 共助：社会全体でリスクを共有・分散する 社会保険など
- ・ 公助：政府の税金による公的な負担

社会保障は、この 3 つのバランスが大切になります。

教科書 p118 で、社会保障の歴史を確認し理解を深めました。

最後に本時の問い、「ベーシックインカム、是か非か」それぞれの考えをワークシートに記入し、授業は終了しました。

【生徒の考え（抜粋）】

ベーシックインカム：是	ベーシックインカム：非
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若い人にもメリットが多い</li> <li>・ 現在の社会保障制度は老人向け</li> <li>・ 働きたくても働けない人や、生活の苦しい人もいるから</li> <li>・ 社会保険の一部を見直し財源を確保し、ベーシックインカムに充てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在保たれている保険など社会保障のバランスが崩れかねない</li> <li>・ 全国民対象とすることで、給付を必要としない人にも財源を割いて給付することになるから</li> <li>・ 少子高齢化の中、介護や医療など手厚くしないと高齢者が困るから</li> </ul>

※1 ニューズウィーク日本版 2021 年 3 月 8 日（月）<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2021/03/post-95775.php>



## 2時間目 2023年11月17日(金) 9:00~9:50

2時間目の問いは「『将来』への投資、ファンドNO.1はなぜ？」です。

金融の知識を活用し、企業の役割や資産形成と経済の関係、最適な資産形成の方法を考えていきます。

はじめに、ライフプランについて考えました。

20歳代から80歳代まで人生のイベントを話し合い、その中から大きなお金が必要になるイベント2つを選びました。

【生徒の回答(抜粋)】

- ・30歳代 住宅購入
- ・40歳代 子育て(教育費)
- ・80歳代 病院、治療費

人生で大きな費用がかかるイベントは3つあると言われており、住宅資金、教育資金、老後資金になります。

- ①住宅資金(土地購入+家):約4,000万円 →住宅ローンの利用
- ②教育資金(高校まで公立、私立文系大学):約900万円 →大学は奨学金の利用
- ③老後資金(25年分 支出-年金収入):約1,640万円 →この費用をどのようにして準備するか

前時に学習した社会保障は、少子高齢化により財源が不足することが想定されていました。したがって、自助による備えも必要になってきます。自助による備えには、貯蓄や投資による資産形成があります。

ここで「投資」のイメージを話し合いました。「お金を出す」、「株を買う」など生徒から出てきましたが、先生からは、「株は難しい」、「お金持ちがすること」、「損をするのでは」というイメージを持っている人もいるかもしれないという説明がありました。

続けて、100万円の資金をどこに投資するか、三択から考えました。投資先は、①林業、②AI開発企業、③介護関連です。

「投資」とは、将来有望と思われる企業やモノに資金を投じることで、利益が得られる可能性がある反面、損失を被る可能性もあります。ポイントは、「将来」と「可能性」です。

- ・将来=長期的な運用が前提
- ・可能性=利益と損失の可能性(リスク)

投資の意味を踏まえ、改めて先ほどの3つの投資先について確認したところ、2019年最優秀ファンド<sup>※1</sup>に選ばれたのは①の林業でした。

ここで本時の問い、「『将来』への投資、ファンドNO.1はなぜ？」です。

問いについて考えるにあたり、貯蓄や投資に関する基本的な知識について確認しました。

【資産形成】貯蓄や投資

- ・リターン(利益)とリスク(振れ幅):トレードオフの関係
  - ①預金、②債券(社債、国債)、③株式 リスクの例:景気、災害、外国為替→長期運用と分散投資(銘柄、時期)でリスクを抑えることができる
- ⇔投機:短期的な取引による利益を目指す(リスクが大きくなる)
- ・株式、債券の購入=企業の資金調達(直接金融)
- 企業の活動を通じて、投資は社会全体に影響を与える
- ・ESG投資:E環境、S社会、Gガバナンスを重視する企業への投資
- ⇔ダイベストメント:投資している金融資産を引き上げること

日本生命保険の例<sup>※2</sup>

ネガティブ・スクリーニング:生命保険事業の使命や公共性に鑑み、クラスター弾や生物兵器、対人地雷、化学兵器、核兵器の製造を行っている企業に対する投融資を禁止しています。

加えて、その他の重要な社会課題への対応の観点から、パーム油関連企業<sup>※</sup>やタバコ関連企業にも

投融資を禁止しています。

※RSPO 認証取得率が 100%の企業を除く

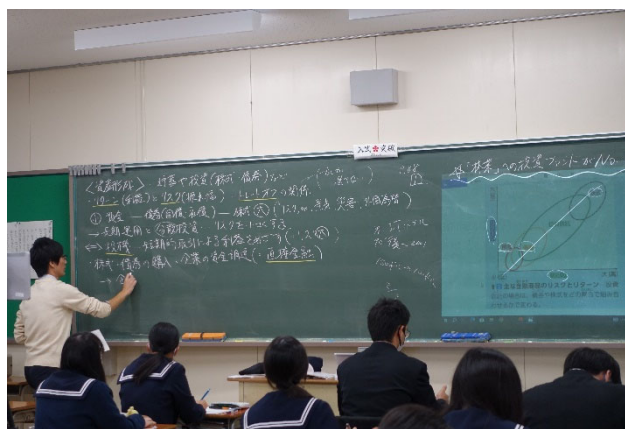
最後に、最優秀ファンドに林業が選ばれた理由を考えワークシートに記入し、ロイノート・スクールに投稿して授業は終了しました。

【最優秀ファンドに林業が選ばれた理由（抜粋）】

- ・ 人手や資金を本当に必要としており、日本の森林再生に関連して地域活性化ができるから。
- ・ 国土に対する森林面積の多い日本では、長期的に見て安定的な需要が考えられるから。
- ・ 環境への配慮を意識した ESG 投資で、長期的に運用されそうだから。

※ 1 教科書『高等学校 公共』（教育図書）p156

※ 2 日本生命 ESG 投融資 : [https://www.nissay.co.jp/kaisha/otsutaeshitai/shisan\\_unyou/esg/](https://www.nissay.co.jp/kaisha/otsutaeshitai/shisan_unyou/esg/) から抜粋



### 3時間目 2023年11月21日(火) 11:00~11:50

3時間目の問いは「ESG投資、サステナブルファイナンスの意義とは」です。

前時2時間の授業で学習した内容を踏まえ、ESG投資の疑似体験を通して投資の意義を考えていきます。

はじめに、席の隣同士でペアを作りクイズに取り組みました。

1,000円クイズ：行動ゲーム理論にもとづいたクイズ

#### 【条件】

1. 右の人は、(左の人に) 1~999円をあげることができる
2. 左の人は、金額が不満なら「拒否」できる
3. 「拒否」されたら、その1,000円はなくなる

結果を確認してみると、「右の人：400円／左の人：もらう」、「右の人：195円／左の人：拒否(金額は関係ない)」などがあり、成立したペアは数組でした。先生からは、日本人が提示する平均額は470円<sup>\*1</sup>で、理由は、小額を提示すると拒否されるかもしれないからということでした。

しかし、1円でももらうことができれば、0円よりは得をするので「拒否」することはないのではないかとこの疑問が出てきます。ここには、論理でははかることのできない人間の心理、「不公平を嫌う心理」が関係しているようです。そして、この心理は経済や投資の世界でも同様に働くようです。

ここで、前時の振り返りとして、ESGの意味を確認しました。

E (Environment) 環境

S (Social) 社会

G (Governance) ガバナンス(企業統治)

「はじめてのサステナブルファイナンス(p6) ESG課題の解決を目指すサステナブルファイナンス」で、詳細を確認しました。環境問題、社会問題、企業統治は持続可能な社会を目指すために解決すべき課題であり、企業の利益のみに注目するのではなく、これら社会課題の解決に取り組んでいる企業に融資・投資をしていくことをESG投資と言います。

「はじめてのサステナブルファイナンス(p8,9)」で主なサステナブルファイナンスの例を確認しました。

本時の取組みは、「ESG投資」をやってみよう、サブタイトルは「今日、サンドイッチにする？」です。

今日のお昼はサンドイッチにします。スーパーで買うものはパン、キュウリ、レタス、チーズ、トマト、フルーツなどがあります。まずは「パン」を買わないといけません。各家庭で普段食べている食パンについて紹介しました。

様々な食パンが紹介されましたが、本時は、「A社」と「B社」2つの商品について考えていきます。

はじめに、それぞれの商品の特徴と値段を比較しました。ここに、これまでに学んだESGの視点を加え、どちらの企業に投資するか(どちらの商品を購入するか)を班で考えていきます。

#### 【班活動の流れ】

- ① 4(5)人班 A社2人、B社2人に分かれる
- ② 企業のESGを調べる(ネットリサーチ、15分)
- ③ 調べた結果を共有、どちらに投資するか各自が決める(記入、10分)
- ④ ロイロノート・スクールでプリントの1. 2部分を送信

先生からは、活動を進める中でのポイントが伝えられました。

- ① 目標の具体性(ex. 数値、結果)
- ② 会社の姿勢(ex. 社長の思い)
- ③ 自分が共感するかどうか

企業のWEBサイトを確認すると、商品情報、企業情報、CSR情報など多くの情報が出てきます。その中から「環境問題」、「社会問題」、「企業統治」についての情報を探し出すことに生徒たちは時間を要していました。

「この取組みは環境問題を解決できそう」、「経営理念とか社長挨拶を見たらいいのかも」、「知らないだけで色々な取組みをしている」など、班で話し合いながら進めていきます。

調べた結果を共有する際は、自分が最も興味を持ったり共感したりした部分を具体的に、そして熱心に説明している様子が見られました。それぞれの企業情報を確認した後、どちらの企業に投資するか一人一人が決定しました。

結果とまとめ・振り返りをワークシートに記入後、写真を撮ってロイロノート・スクールに提出しました。

【1. 生徒の選択（抜粋）】

A社	B社
<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への取組みが強い。未使用食料やごみの再資源化、多方面からのCO<sub>2</sub>削減など</li> <li>・物流など、自分たちでは手の届かない会社同士の連携に力を入れている</li> <li>・国際開発救援財団を支援しており、自分もこれからの世代である子どもたちによりよい未来を過ごしてほしいと思っているから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成制度に力を入れている。社員の働きやすい環境が大切にされている</li> <li>・「中高生小麦づくり」で、学生に対して誰かのために行動する大切さを伝えている</li> <li>・CO<sub>2</sub>の50%削減が実績としてできている</li> </ul>

【2. 生徒の感想（抜粋）】

- ・ESGへの取組みを行っている企業へ投資することで、その取組みが活性化したり、他の企業も投資してもらうためにESGの取組みを見直すことになったと思った。そうすることで環境が守られたりSDGsにも貢献できると思う。
- ・企業の取組みが自分たちの生活に入り込んでいるという意識が芽生えた。
- ・自分には関りがないと視野に入っていなかったことも、「投資」という形で関わることができると気付いた。
- ・表面的なイメージだけでなく、実際に何をしているのかを知ることが大事だと思った。

先生からは投資に限らず、普段の買い物や就職先を考えるときにも、ESGの視点を持って考えることの重要性が伝えられました。

社会保障制度の役割を理解し、意図をもった資産形成のあり方を考え、ESG投資の疑似体験から、よりよい社会の実現を視野に一人一人が経済活動に参画していく必要性を実感することができた3時間の授業となりました。

※1 投資&IRマガジン『ジャパニーズ インベスター』2023年1月25日発行（宝印刷株式会社）P.28

